令和7年度　全国学力・学習状況調査の結果概要

阪南市教育委員会

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 対象学年

小学校第6学年　中学校第3学年

3. 調査内容

①教科に関する調査
- ・小学校【国語、算数、理科】
- ・中学校【国語、数学、理科】
- ※英語（中学校）は3年に一度程度の実施のため実施せず

②質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

4. 実施日　令和7年4月17日（木）

※中学校理科は、4/14～4/17の期間内で指定日に実施

【今年度調査の特徴】

※教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を実施（中学校理科は、CBT・IRT方式にて実施）

※児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施

※紙面で実施する調査の後日実施は、4月18日（金）から4月30日（水）まで実施

●今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

【中学校理科について】

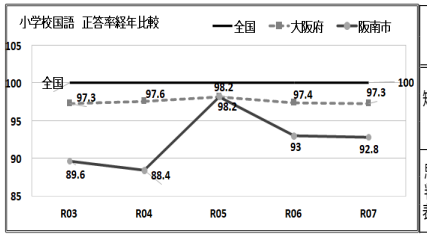
中学校理科は1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は全日程共通と実施日により異なる公開問題、生徒ごとに異なる非公開問題があります。

IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

教科に関する調査結果

国語

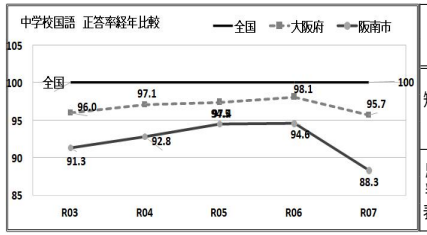
小学校



学習指導要領の内容		平均正答率(%) 阪南市	大阪府	全国
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.2	77.0	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	55.9	61.5	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.6	80.3	81.2
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.2	65.0	66.3
	B 書くこと	64.8	67.1	69.5
	C 読むこと	52.6	56.1	57.5

文章の中から特定の情報を見つけ出す力や、登場人物の行動から気持ちを読み取る力は身についている。一方で、文章全体の構成を捉えて要旨をまとめたり、自分の考えと比較しながら文章を読んだりすることに課題がある。

中学校

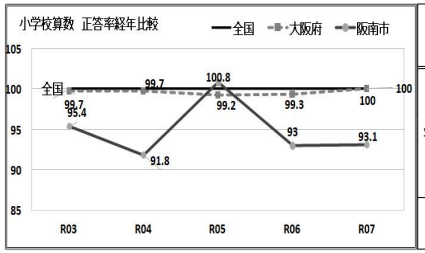


学習指導要領の内容		平均正答率(%) 阪南市	大阪府	全国
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	42.0	47.8	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	47.7	50.7	53.2
	B 書くこと	47.2	50.5	52.8
	C 読むこと	55.2	61.2	62.3

文章の要旨を捉えることや、話し合いの場面で自分の立場を明確にして話す内容については、よくできている。しかし、複数の文章やグラフなどの資料から必要な情報を取り出し、目的に応じて整理・要約して記述することに課題がある。

算数・数学

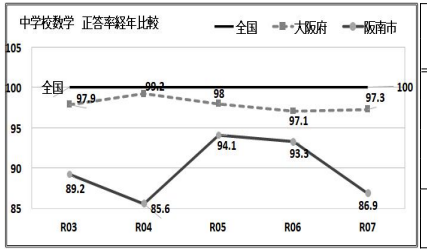
小学校



学習指導要領の内容		平均正答率(%) 阪南市	大阪府	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	57.3	62.4	62.3
	B 図形	55.3	55.7	56.2
	C 測定	48.2	53.8	54.8
	C 変化と関係	50.8	57.3	57.5
	D データの活用	56.6	61.5	62.6
評価の観点	知識・技能	61.8	65.1	65.5
	思考・判断・表現	43.5	47.9	48.3

整数の計算や基本的な図形の面積を求める問題など、基礎的な計算力や公式の理解は定着している。しかし、文章問題の場面を数理的に捉えて式を立て、その式の意味を言葉で説明することに課題がある。

中学校



学習指導要領の内容		平均正答率(%) 阪南市	大阪府	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	39.7	42.4	43.5
	B 図形	38.7	46.2	46.5
	C 関数	42.6	46.3	48.2
	D データの活用	49.7	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	48.7	52.9	54.4
	思考・判断・表現	31.9	37.4	39.1

一次方程式の計算や、資料の平均値を求めるといった基本的な知識・技能は多くの生徒が習得している。その一方で、図形の性質を用いて証明の道筋を構想し、論理的に記述することや、事象の背景にある数学的な関係性を見出して説明することに課題がある。

理科

小学校

小：理科	平均正答数	平均正答率	無解答率
阪南市	9.0問/17問	53%	2.8%
大阪府	9.3問/17問	55%	3.2%
全国	9.7問/17問	57.1%	2.8%

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%) 阪南市	大阪府	全国
領域	エネルギー	43.8	43.9	46.7
	粒子	46.1	49.4	51.4
	生命	49.9	49.0	52.0
	地球	60.6	63.9	66.7
評価の観点	知識・技能	51.9	52.7	55.3
	思考・判断・表現	54.2	56.2	58.7

植物の成長の条件や、てこの働きといった基本的な知識はよく習得できている。一方で、観察や実験の結果を読み取ったうえで、その結果から「何が言えるのか」や「そう判断した理由」を科学的な言葉で記述することに課題がある。

中学校

中：理科	平均正答数	無解答率	IRTスコア
阪南市	2.6問/6問	7.5%	482
大阪府	2.7問/6問	6.1%	487
全国	2.9問/6問	4.6%	503

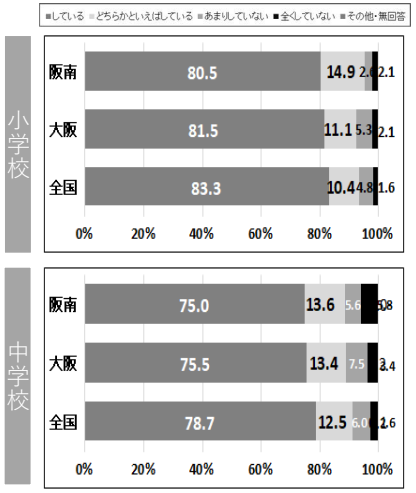
全日程共通の公開問題における学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%) 阪南市	大阪府	全国
領域	エネルギー	51.9	52.7	51.9
	粒子	49.8	53.2	56.8
	生命	24.2	27.7	29.7
	地球	34.4	33.5	36.2
評価の観点	知識・技能	38.5	42.0	42.2
	思考・判断・表現	48.1	49.2	53.9

化学変化や電流に関する基本的な知識の定着が図られている。しかし、観察・実験の結果を正しく分析し、そこから導き出される結論やその理由を、科学的な言葉を用いて論理的に説明することに課題がある。

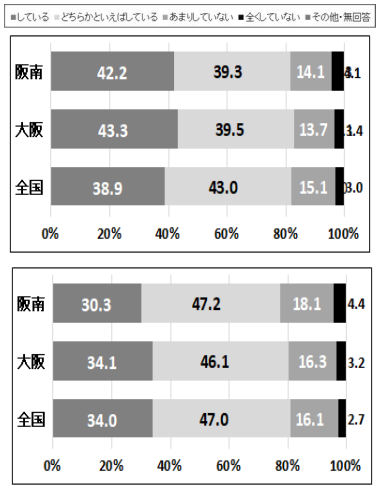
令和7年度　全国学力・学習状況調査の結果概要　　阪南市教育委員会

児童生徒質問調査結果

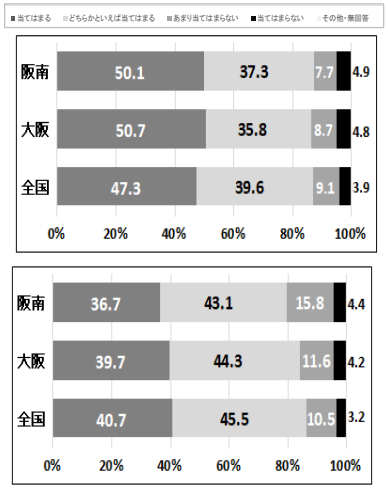
朝食を毎日食べていますか



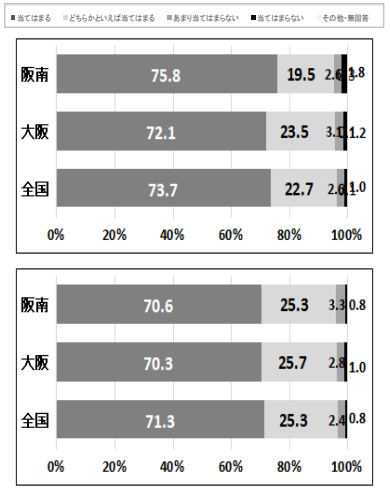
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



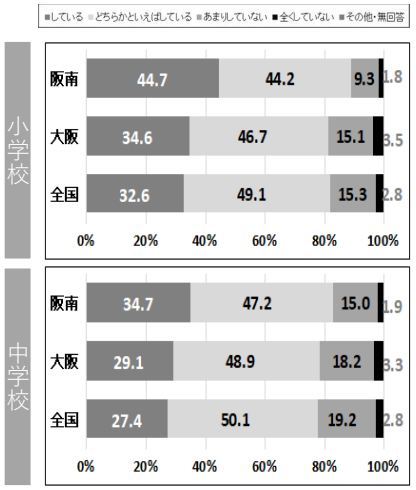
自分には、よいところがあると思いますか



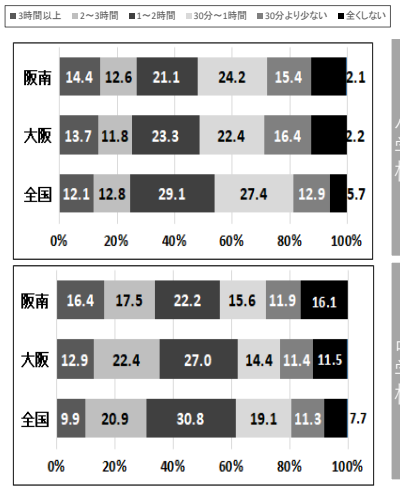
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



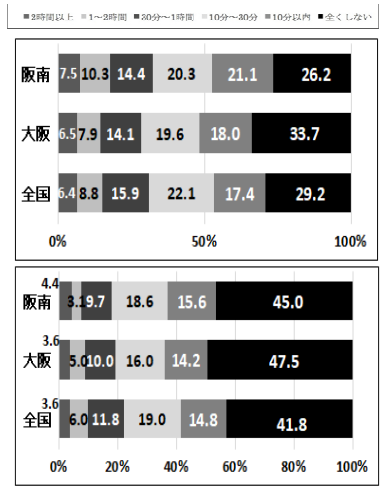
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



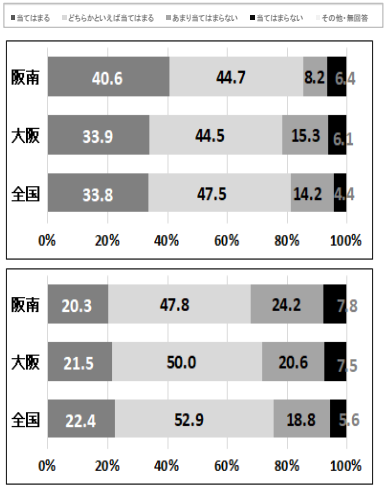
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



【生活習慣】
朝食を毎日食べていると肯定的に回答した子どもの割合は、小学校は国・府を上回るが、中学校は国を下回る。同じくらいの時刻に寝ていると肯定的に回答した子どもは、小学校は国・府と同程度で、中学校は国・府を下回る。

【自己有用感・社会貢献意識】
自分には、よいところがあると肯定的に回答した子どもの割合は、小学校は国・府をわずかに上回る一方、中学校は国・府を下回る。また、人の役に立つ人間になりたいと思うかについて肯定的に回答した子どもの割合は、小中学校ともに阪南市は府と同程度、国をわずかに下回る。

【学習の様子】
自分で学び方を考え、工夫することはできていると肯定的に回答した子どもの割合は、小学校は国・府を大きく上回り、中学校も国・府を上回っている。授業以外での勉強時間については、小学校は短時間層は国より高いが、長時間層も国より高い。中学校は短時間層が国・府より高く課題。一方、長時間層も高くなっている。

【読書について】
小学校は「全くしない」割合が国・府より低めで、1時間以上の読書も相対的に多く、良好な分布。中学校は短時間・非読書層が厚く、読書時間の確保に課題。長時間読書層は国・府を下回る。

【地域社会貢献について】
小学校は肯定的な回答が国・府国を上回る。中学校は肯定的な回答が国・府を下回る。